

2025年度 第1四半期決算 説明資料

2025年7月28日

塩野義製薬株式会社



SHIONOGI

Agenda

01

2025年度 第1四半期決算の概要

(P.3-8)

02

HIV事業の進捗

(P.9-11)

03

2030年Visionの実現に向けて

(P.12-23)

- JTグループ医薬事業 M&Aの意義
- 開発パイプラインの進展

2025年度 第1四半期決算の概要



SHIONOGI

第1四半期のハイライト

財務および非財務の両面で、重要な取り組みが着実に進展

- **売上収益および全ての利益項目で、増収増益を達成**
 - HIVフランチャイズの伸長
- **鳥居薬品の株式公開買付けが成立*1**
 - JTグループ医薬品事業の吸収合併に向けた前進
- **中長期の成長を担う開発パイプラインの進展**
 - エンシトレルビルの欧米申請

連結経営成績

売上収益および全ての利益項目において、前年同期比で増収増益

(単位：億円)

	2025年度				2024年度	対前年同期	
	通期予想	上期予想	4-6月実績	対上期進捗率	4-6月実績	UP率	増減額
売上収益	5,300	2,330	998	42.8%	976	2.2%	22
営業利益	1,750	820	351	42.8%	281	24.9%	70
税引前四半期利益	2,220	1,020	463	45.4%	365	26.8%	98
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1,800	860	394	45.8%	306	28.5%	87
EBITDA*1	1,960	930	406	43.7%	331	22.8%	75

連結損益計算書

(単位：億円)

	2025年度		2024年度		対前年同期	
	通期予想	上期予想	4-6月実績	達成率	4-6月実績	UP率 増減額
売上収益	5,300	2,330	998	42.8%	976	2.2% 22
売上原価	16.6 880	14.2 330	12.3 123	37.3%	14.8 144	△14.7% △21
売上総利益	4,420	2,000	875	43.7%	831	5.2% 43
販管費*1+研究開発費	49.6 2,630	49.8 1,160	51.3 512	44.1%	55.9 546	△6.2% △34
販売費・一般管理費	24.7 1,310	24.9 580	26.4 263	45.4%	25.8 251	4.6% 12
研究開発費	24.9 1,320	24.9 580	24.9 249	42.9%	30.2 294	△15.4% △45
その他の収益・費用	△40	△20	△12	58.6%	△5	152.8% △7
営業利益	33.0 1,750	35.2 820	35.2 351	42.8%	28.8 281	24.9% 70
金融収益・費用	470	200	112	56.2%	84	33.5% 28
税引前四半期利益	41.9 2,220	43.8 1,020	46.4 463	45.4%	37.4 365	26.8% 98
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1,800	860	394	45.8%	306	28.5% 87

主な増減要因（対前年同期）

売上収益

- 増加：ロイヤリティー収入
- 減少：海外子会社/輸出、国内医療用医薬品

売上原価

- 減少：プロダクトミックスの変化

販売費・一般管理費

- 増加：米国事業の販売関連費用

研究開発費

- 減少：2024年度に複数の大規模臨床試験を実施
 - エンシトレビル Phase 3試験
 - S-309309 Phase 2試験

金融収益・費用

- 増加：ViiV社からの配当金
 - HIVフランチャイズの売上が好調

事業別売上収益

(単位：億円)

	2025年度		2024年度		対前年同期	
	通期予想	上期予想	4-6月実績	達成率	4-6月実績	UP率 増減額
国内医療用医薬品	1,830	620	141	22.8%	154	△8.5% △13
海外子会社/輸出	549	257	142	55.4%	150	△4.9% △7
Shionogi Inc. (米国)	226	109	62	56.8%	60	3.7% 2
Fetroja	-	-	59	-	48	23.2% 11
Shionogi B.V. (欧州)	169	83	47	56.7%	40	17.4% 7
Fetcroja	-	-	34	-	31	10.6% 3
塩野義有限公司 (中国)	70	35	15	42.8%	23	△34.7% △8
その他	84	30	18	61.3%	27	△31.6% △9
製造受託	132	65	45	68.5%	36	24.1% 9
一般用医薬品	185	89	24	27.2%	24	0.1% 0
ロイヤリティー収入	2,579	1,287	639	49.7%	610	4.7% 29
HIVフランチャイズ	2,448	1,258	612	48.6%	598	2.3% 14
その他	131	29	27	94.5%	12	125.0% 15
その他	25	12	6	52.7%	2	282.1% 5
合計	5,300	2,330	998	42.8%	976	2.2% 22

主な増減要因（対前年同期）

国内医療用医薬品

- ・ 減少：急性呼吸器感染症薬の売上

海外子会社/輸出

- ・ 増加：セフィデロコルの売上（欧米）
- ・ 減少：中国事業の売上

製造受託

- ・ 増加：ViiV社およびRoche社への原薬提供

ロイヤリティー収入

- ・ 増加：
 - HIVフランチャイズ：ViiV社による売上
 - その他：Roche社からのロイヤリティー収入
 - > 中国、米国におけるインフルエンザの流行

2025年度 第1四半期の成果と今後の見通し

トップラインの成長と適正なコストマネジメントにより、上期予想は達成の見込み

第1四半期の成果

トップライン

- ViiV社によるHIVフランチャイズの伸長
- セフィデロコルの堅調な拡大

コスト マネジメント

- 売上に応じたコストマネジメントの実践
- 成長ドライバーへの投資が計画通りに進捗

今後の見通し

- HIVフランチャイズ、セフィデロコルの成長は継続
- COVID-19の流行に伴うゾコーバの売上増加
 - 治療率向上の取り組みを推進

- M&Aを見据えたコストマネジメントの強化
- 優先順位に基づく積極的なR&D投資を加速

HIV事業の進捗

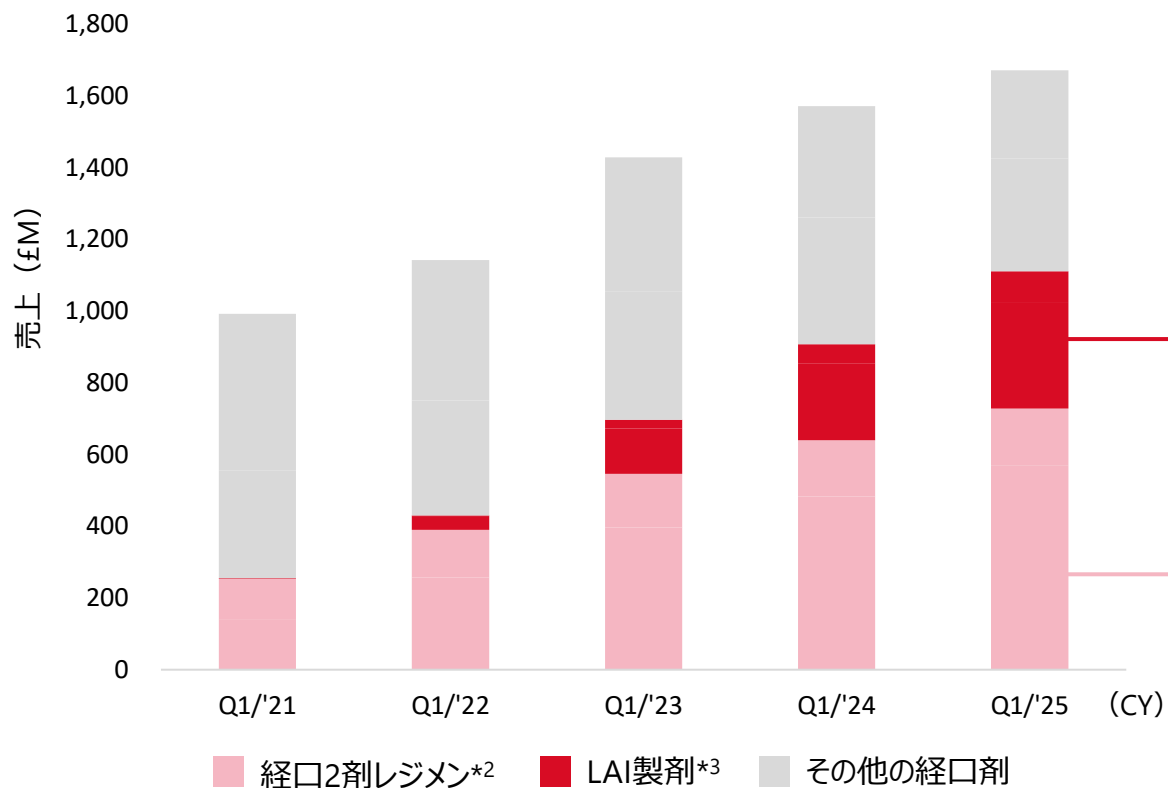


SHIONOGI

ViiV社によるHIVフランチャイズの進展

LAI製剤および経口2剤レジメンの伸長が加速し、HIV事業全体の成長をけん引

ViiV社の売上の推移*1



対前年同期からの増加額



治療

Cabenuva (カボテグラビル+リルピビル)

+ **£81M** (+38%) CY2025 1Q実績 : £294M



予防

Apretude (カボテグラビル)

+ **£35M** (+63%) CY2025 1Q実績 : £89M



治療

Dovato (ドルテグラビル+ラミブジン)

+ **£87M** (+19%) CY2025 1Q実績 : £570M

ULA^{*1}製剤の開発：S-365598/ VH184^{*2}（第3世代インテグラーゼ阻害剤）

6カ月に1回投与のULA候補であり、将来発生し得る薬剤耐性変異に対応できる特徴を有する

S-365598の特徴

既存薬と異なる耐性プロファイル

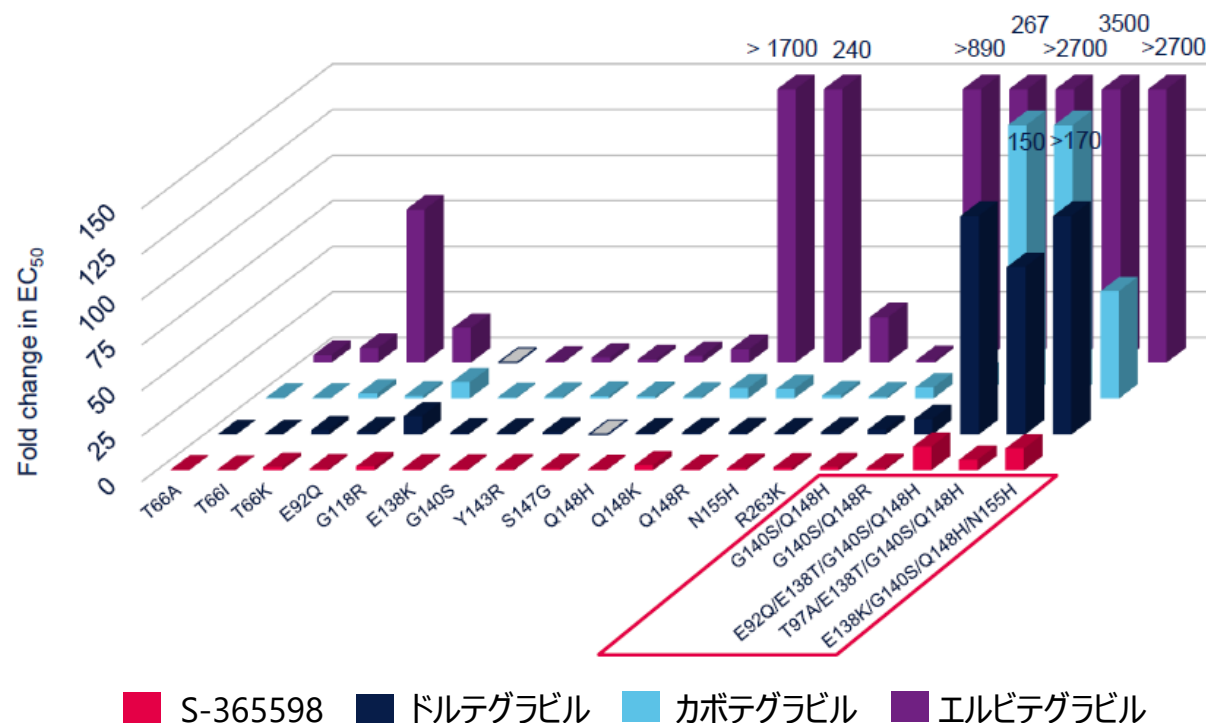
- 既存の薬剤耐性変異（右図赤枠）に対しても抗ウイルス活性を維持

開発状況

6カ月に1回投与のULA/ 2カ月に1回投与の自己投与製剤の候補

- 経口剤を用いたPhase 2試験にてPoC^{*3}を確認
- 6カ月に1回投与の注射剤での持続性を検証中
 - 2025年中にデータ取得予定

インテグラーゼ阻害剤への耐性変異をもつ代表的なHIV-1株に対するS-365598の抗ウイルス活性（In vitro）



^{*1} ULA (Ultra Long Acting)：超長時間作用型 ^{*2} 塩野義製薬がViiV社に導出した第3世代インテグラーゼ阻害剤（開発番号：VH4524184）

^{*3} Proof of Conceptの略語：当該疾患の治療薬として、その化合物のコンセプト（作用部位や作用機序）が有効性や安全性を含めて妥当かどうかを臨床試験で証明すること

2030年Visionの実現に向けて

- JTグループ医薬事業 M&Aの意義
- 開発パイプラインの進展



SHIONOGI

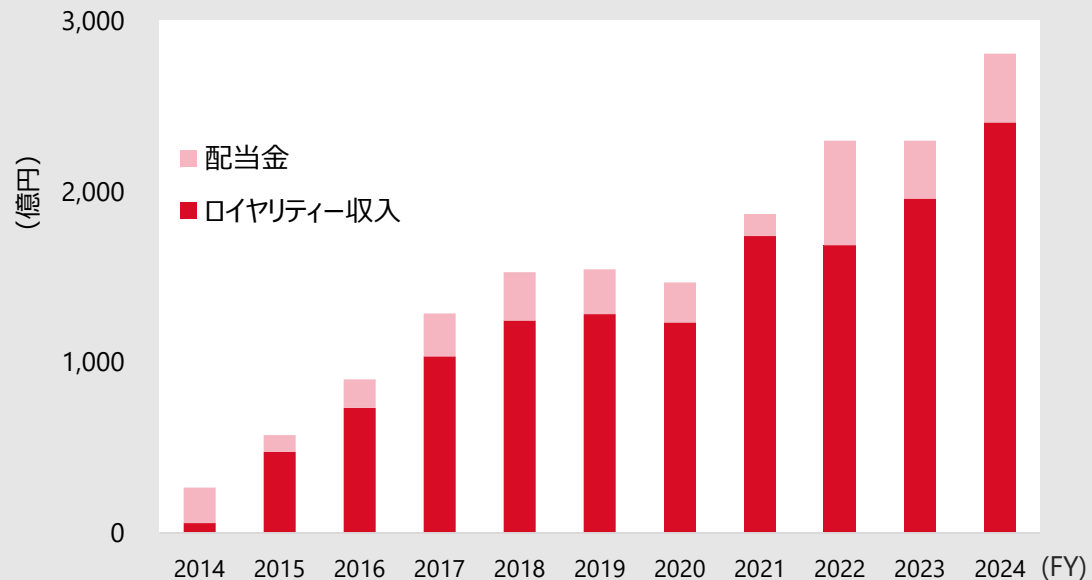
M&Aの前提：安定的な経営の見通し

HIV事業は今後も着実に成長

HIV事業の成長

高利益率かつ強靱な収益基盤を構築

【ViiV社からのHIVロイヤリティー収入および配当金の推移】



HIV事業の中長期的な見通し

2030年以降もHIV事業は経営の屋台骨を構成

—LAI製剤*1のさらなる市場への浸透—
CabenuvaおよびApretudeの持続的な成長

—一次世代の成長ドライバーの開発推進—
ULA製剤*2の上市により、成長を加速

JTグループ医薬事業との融合

経営戦略に基づくM&Aにより、成長の源泉である自社創薬力と国内販売力を強化*1

SHIONOGIの経営戦略*2：自社創製の新薬をグローバルに提供し、高効率な経営を実践

自社品の創製

・ 自社創薬比率 **69%***3

ロイヤルティビジネス

自社による販売

JT

自社創薬力の強化

グローバルでNo.1の低分子創薬基盤の確立

鳥居薬品

国内販売の強化

営業活動におけるシナジーの創出

JTグループ医薬事業との融合：自社創薬力の強化を最重視したM&A

JTとの融合により、自社創製のパイプラインをさらに強化する

SHIONOGIの創薬サイクルのスピードと質を向上

薬理/安全性・薬物動態チーム

ー創薬プロセスの効率化ー

薬物動態プロファイルの予測

(JT独自の高度な非臨床評価系)

多様な評価を高効率で実施できる基盤

(低分子創薬に強みを発揮するJT独自のHTS^{*1}系)

化学合成チーム

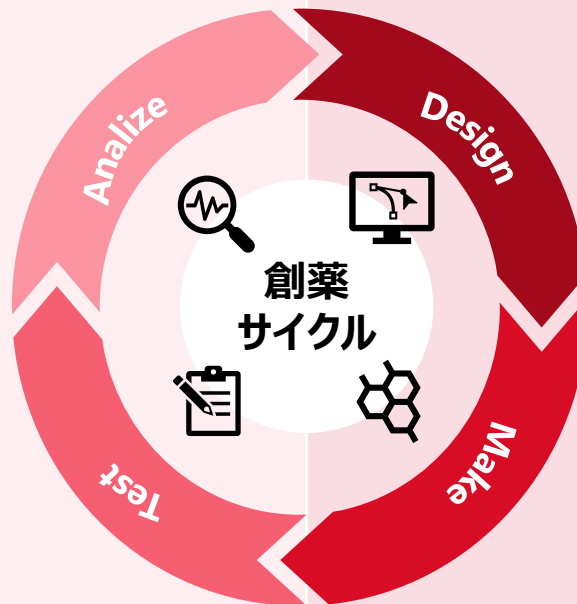
ー優れた化合物の合成ー

JT独自の“構造”を基盤にした標的探索

(タンパク質構造解析×良質な標的の探索力×AI)

経験豊富なメディシナルケミスト^{*2}の拡充

(優れた新薬を多数創出)



先端技術プラットフォームによる創薬基盤の強化

データの生成および活用と化合物プロファイルの予測 (AI/量子コンピューター等)



JTグループ医薬事業との融合：国内販売の強化*1

鳥居薬品とのコプロモーションにより、両社の製品をさらに拡大

コプロモーションの概要（9月1日開始）：対象製品は順次拡大予定

	従来の状況	コプロモーション後の姿
ゾコーバ ゾフルーザ 急性呼吸器感染症薬	感染症領域（内科）がSHIONOGIの強み  内科中心 ※耳鼻科のカバー率はまだ低い	 鳥居薬品の強みを活かして、 情報提供の強化 内科 + 耳鼻科
コレクチム アトピー性皮膚炎治療薬	耳鼻科、皮膚科領域が鳥居薬品の強み  皮膚科中心	 SHIONOGIの強みを活かして、 内科へも情報提供を拡大 内科 + 皮膚科

2030年Visionの実現に向けて

- JTグループ医薬事業 M&Aの意義
- 開発パイプラインの進展



SHIONOGI

COVID-19 抗ウイルス薬：開発アップデート

エンシトレビルのグローバル展開が大きく進展し、S-892216も順調に進展

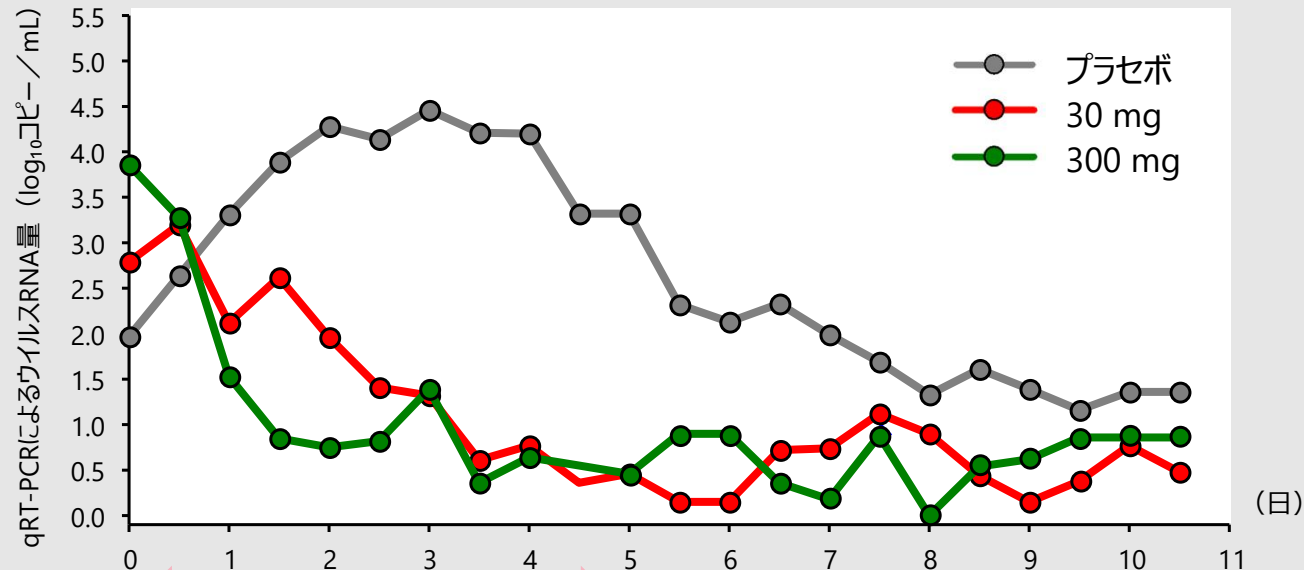
エンシトレビル		
	FY2024 4Q決算時点	アップデート
米国	ローリングサブミッション開始	適応：予防 承認申請を実施
欧州	申請準備中	適応：治療および曝露後予防 承認申請を実施
日本	適応：治療 承認取得済み 適応：曝露後予防 追加申請 小児適応準備中	6歳以上かつ体重20kg以上の小児に対する 用法・用量追加申請を実施

S-892216		
 <u>抗ウイルス活性</u>	 <u>薬物相互作用</u>	 <u>妊婦への使用</u>
既存薬と比較して 約 20 倍高い	既存薬と比較して CYP3A阻害に対する 懸念なし	非臨床試験にて 懸念なし
▶ 次世代のCOVID-19 抗ウイルス薬として、優れたプロファイルを有する		
	アップデート	
経口剤 治療	Phase 2実施中： FPI*1を達成	
LAI*2 曝露前予防	Phase 1*3開始：4月	

S-337395 : Phase 2a ヒトチャレンジ試験*1の結果

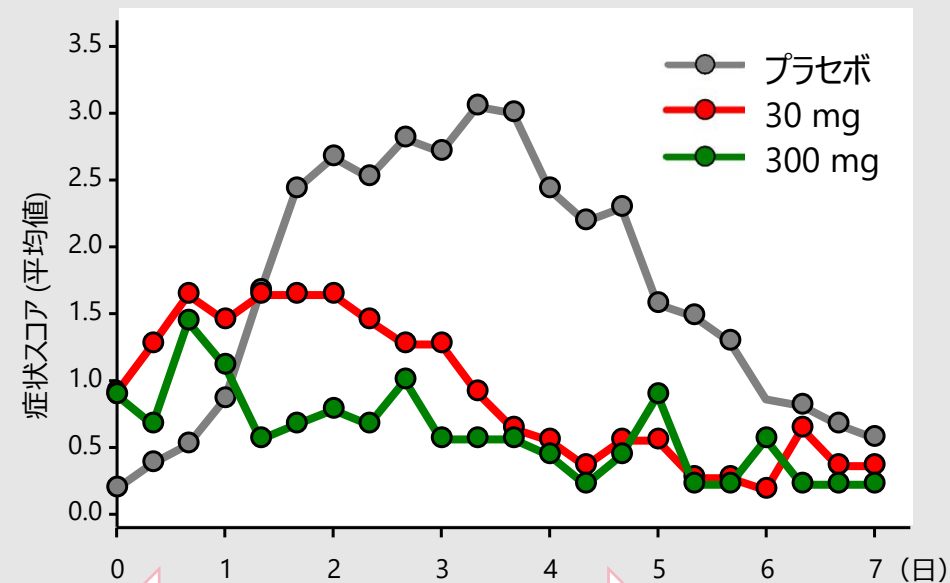
RSウイルス感染症治療薬としての開発を支持する、良好な抗ウイルス効果と症状改善効果を確認

主要評価項目：qRT-PCR*2で定量したウイルスRNA量の曲線下面積（AUC）



- 用量依存的なウイルス量の減少を確認
- プラセボと比較して統計学的に有意なウイルス量減少
 - プラセボに対しウイルスAUCが約89%低下

副次評価項目：症状スコア*3の経時的推移

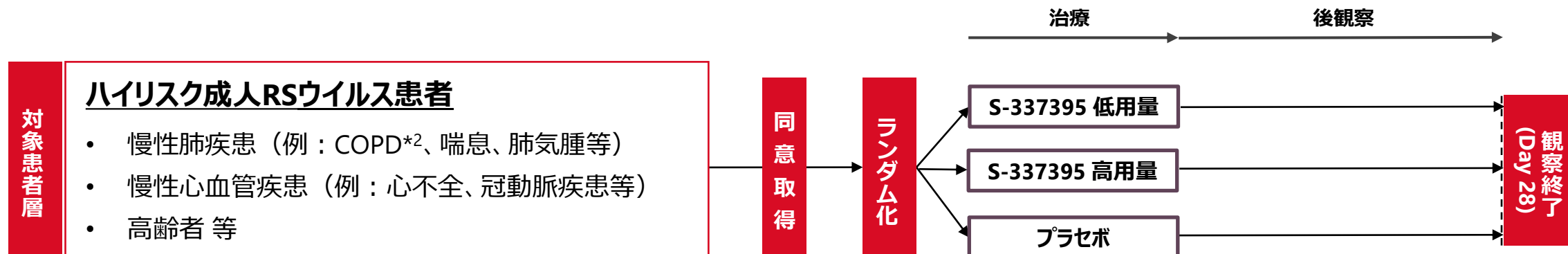


プラセボと比較して統計学的に有意な
症状スコアの改善を確認

S-337395^{*1}：今後の開発計画（Phase 2b試験概要・デザイン）

世界初の経口治療薬を目指し、年内にハイリスク患者対象のPhase 2b試験を開始

主要評価項目	ウイルスRNA量のベースラインからの変化量 (qRT-PCR)
副次評価項目	有効性：症状スコア重症度のベースラインからの経時変化 など
試験デザイン	多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間試験
用法・用量 症例数	・ プラセボ：64例 ・ S-337395 低用量・高用量：各64例



COVID-19ワクチンのポートフォリオ

S-268024が主要評価項目を達成し、ワクチン事業は次のステージへ

プロジェクト	抗原	現在の状況	備考
コブゴーズ	起源株	製造販売承認取得 (2024年度 1Q)	—
S-268023	XBB1.5株	Phase 3 完了 (2024年度 2Q)	・主要評価項目未達 (XBB1.5株に対する中和抗体誘導を確認) ・良好な安全性プロファイル
S-268024	JN.1株	Phase 3 実施中 (2025年度 1Q)	・主要評価項目*1,2達成 (ヌバキソビッド筋注に対して非劣性) ・良好な安全性プロファイル
S-567123	サルベコウイルス (ユニバーサル ワクチン)	Phase 1 準備中 (2025年度 1Q現在)	臨床試験デザインの検討および 前臨床試験を実施中

*1 追加接種28日後のJN.1株に対する中和活性の幾何平均抗体価、抗体応答率 *2 [臨床研究等提出・公開システム](#)

S-268024 : Phase 3 試験結果

臨床試験において、同モダリティのワクチンに対する非劣性と良好な安全性を確認

－試験目的と主要評価項目－

目的

S-268024追加免疫時のSARS-CoV-2（JN.1株）に対する
中和抗体価をヌバキソビット筋注と比較
対象者：18歳以上の初回免疫完了被験者

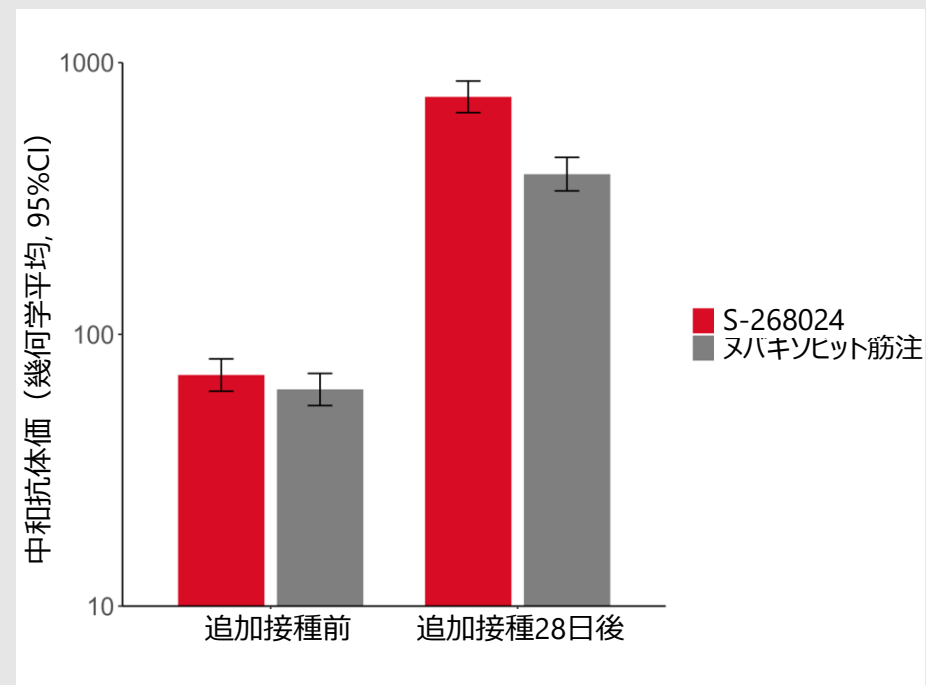
主要 評価項目

- 追加接種28日後のSARS-CoV-2(JN.1株)に対する
- 中和抗体価の幾何平均値（非劣性）
 - 中和抗体応答率（非劣性）

－安全性－

- S-268024はコブゴーズおよびS-268023と同様の
良好な安全性プロファイルを確認
- 本試験において、新たな安全性上の懸念は見られなかった

－中和抗体価（JN.1株）の幾何平均値－



ヌバキソビット筋注に対する非劣性が示された

パイプラインの進展：社会的影響度の高いQOL疾患

感染症だけでなく、QOL疾患においても成長ドライバーの確立に向け順調に進展

プロジェクト	対象疾患	アップデート
Naldemedine	オピオイド誘発性便秘症	中国での承認申請の完了*1
レダセムチド	栄養障害型表皮水疱症	追加Phase 2試験の患者組み入れ完了
S-606001	ポンペ病	Phase 2試験の開始
S-898270	アルツハイマー型認知症	Phase 1試験の開始
SASS-002 (Sulthiame)	睡眠時無呼吸症候群（閉塞性）	合併会社Shionogi-Apnimed Sleep Science社への導入*2 (Phase 2)

Appendix

国内医療用医薬品売上収益

(単位：億円)

	2025年度		2024年度		対前年	
	通期予想	上期予想	4-6月実績	達成率	4-6月実績	UP率 増減額
急性呼吸器感染症薬	858	310	29	9.3%	39	△25.8% △10
クービビック	93	12	1	9.8%	-	- 1
スインプロイク	81	39	15	37.6%	11	35.3% 4
オキシコンチン類	56	29	11	38.9%	10	8.3% 1
その他	742	230	85	37.1%	94	△9.4% △9
合計	1,830	620	141	22.8%	154	△8.5% △13

- 急性呼吸器感染症薬 -

- COVID-19治療薬：ゾコーバ
- インフルエンザ治療薬：ゾフルーザ・ラピアクタ

2025年度の為替レート

為替レート（期中平均）		
	2025年度	
	前提	4-6月 実績
ドル	147円	144.60円
ポンド	187円	193.03円
ユーロ	153円	163.83円

COVID-19 抗ウイルス薬：市販後の大規模臨床研究

抗ウイルス薬投与によるCOVID-19罹患後症状（Long COVID、コロナ後遺症）の発現リスク減少を確認

徳洲会グループにおけるCOVID-19 患者を対象とした前向き観察研究（ANCHOR 試験）

－試験デザイン－

目的	抗ウイルス薬*1での治療の有無による、COVID-19罹患後症状*2の頻度の評価
対象患者	徳洲会グループ病院でSARS-CoV-2感染が確認され、症状のある12歳以上の患者
評価項目	COVID-19罹患後症状の発現率

－試験速報－

抗ウイルス薬を投与しなかった場合と比較して、
抗ウイルス薬による治療を実施した場合

**COVID-19の罹患後症状の発現リスクが
統計学的に有意に減少**

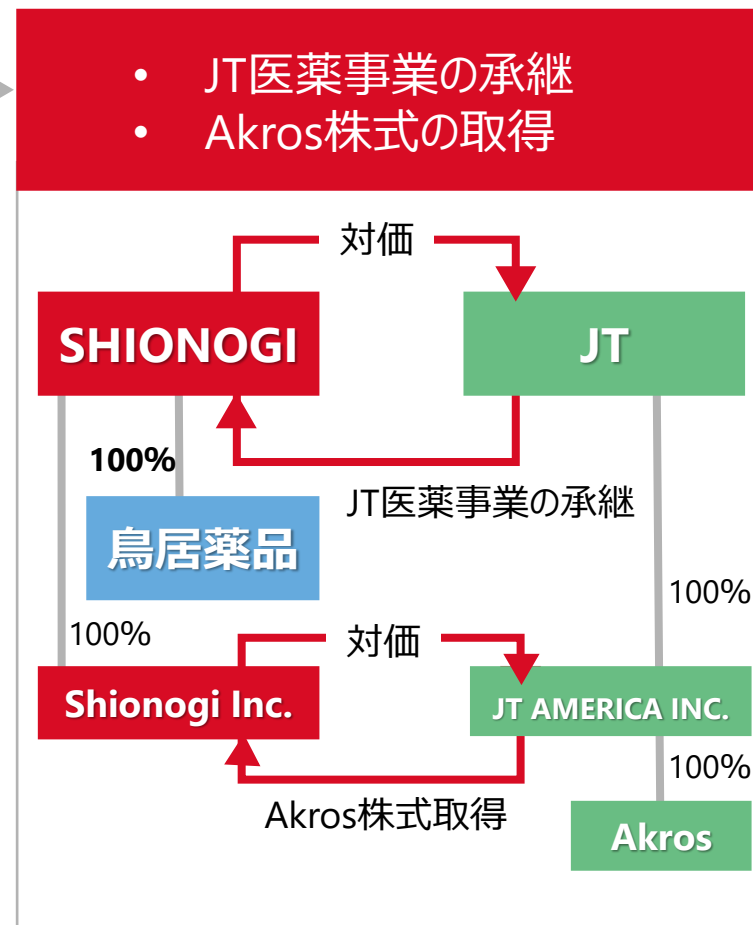
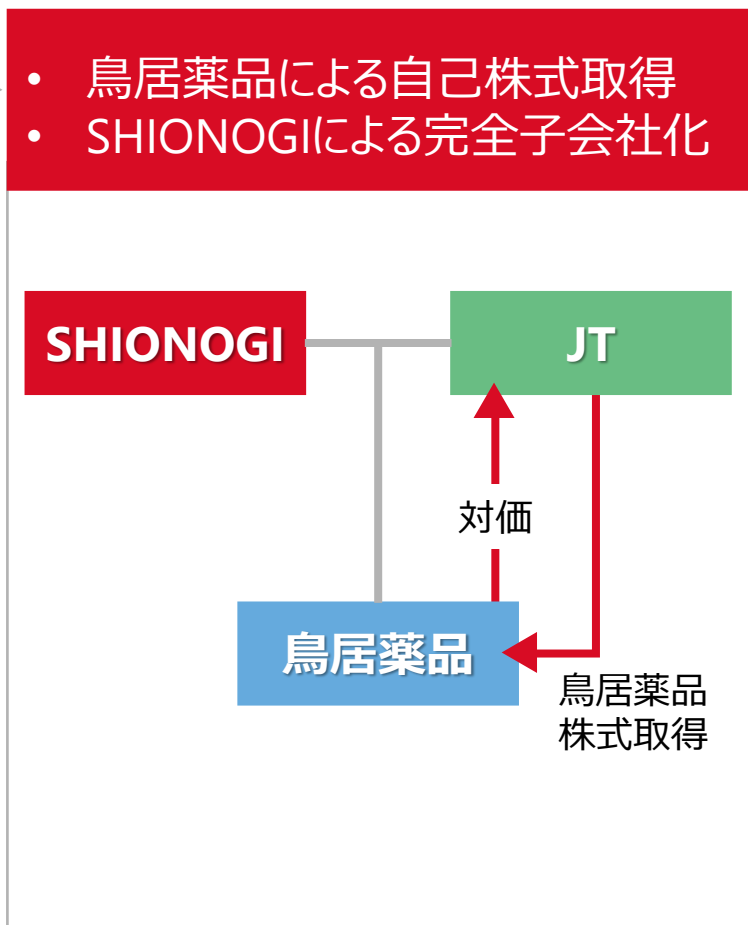
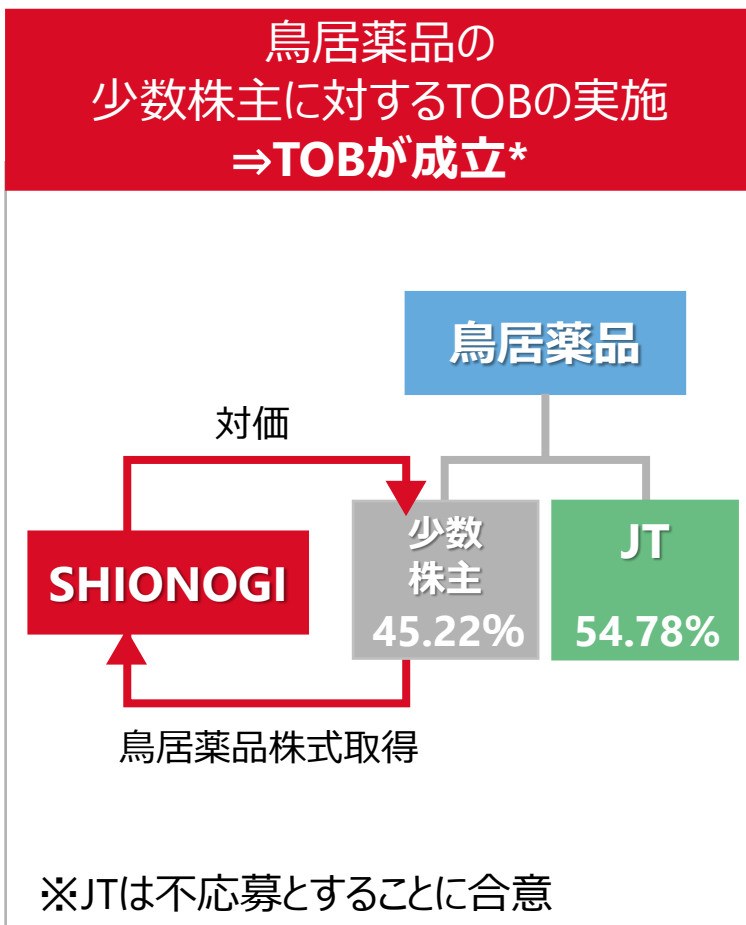
試験結果の詳細については学会で発表予定

*1 エンシトレルビル、ニルマレルビル/リトナビル、モルヌピラビルのいずれかで治療を実施

*2 陽性診断後、28日および84日の両時点で、COVID-19との関連あり又は不明の5症状（倦怠感、咳、息切れまたは呼吸困難、嗅覚異常、味覚異常）のうち同じ症状が少なくとも1つ認められること

M&Aのプロセス

鳥居薬品の株式公開買付け成立により、JTグループ医薬事業のすべてをSHIONOGIグループへ



M&Aのスケジュール

今後の予定

2025年9月

: 株式併合および自己株式取得の効力発生

⇒ 鳥居薬品は当社の完全子会社へ

2025年12月

: 会社分割の効力発生

⇒

- JT医薬事業は当社に吸収
- AkrosはShionogi Inc.の完全子会社へ

- 上記それぞれの効力発生時点での取引関係や従業員の業務、職場、働き方等の変更は実施しない

2025年							
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
● 本件公表	● TOB成立*			● 鳥居薬品 完全子会社化		● • JT医薬事業の吸収 • Akrosの株式譲受	

2025年度に予定しているR&Dマイルストーン

赤字：2025年5月13日～2025年7月28日の変更 ✓：マイルストーン達成

※速報は入手時期を示しており、開示時期は別途検討

疾患領域	プロジェクト	対象疾患	開発ステージ	FY2025 1H		FY2025 2H	
感染症	エンシトレルビル	COVID-19治療	申請	申請（欧州）	✓		
		COVID-19曝露後予防	申請	申請（米国、欧州）	✓	承認（日本、 米国 ）	
		COVID-19 治療 （小児6-11歳）	申請	申請（日本）	✓		
	S-268024	COVID-19（JN.1ワクチン）	Phase 3	Phase 3速報	✓		
	セフィデロコル	AMR（グラム陰性菌感染症小児）	Phase 3	Phase 3速報		申請（米国、欧州）	
	S-892216	COVID-19 治療（経口）	Phase 2			Phase 2速報	
	S-743229	AMR（複雑性尿路感染症）	Phase 1			Phase 1速報	
	S-649228	AMR（グラム陰性菌感染症）	Phase 1			Phase 1速報	
社会的 影響度の高い QOL疾患	ズラノロン	うつ病、うつ状態	申請			承認取得（日本）	
	Zatolmilast	脆弱X症候群	Phase 2/3			Phase 2/3速報	
	SASS-001 （S-600918 + 併用薬X）	睡眠時無呼吸症候群 （中枢性）	Phase 2			Phase 2速報	
	S-531011	固形がん	Phase 1b/2			Phase 1b/2速報	
	S-606001	ポンペ病	Phase 2	Phase 1速報	✓		
	S-740792	多発性硬化症に伴う歩行障害	Phase 1			Phase 1速報	

主要な開発プロジェクト

- 感染症領域 -

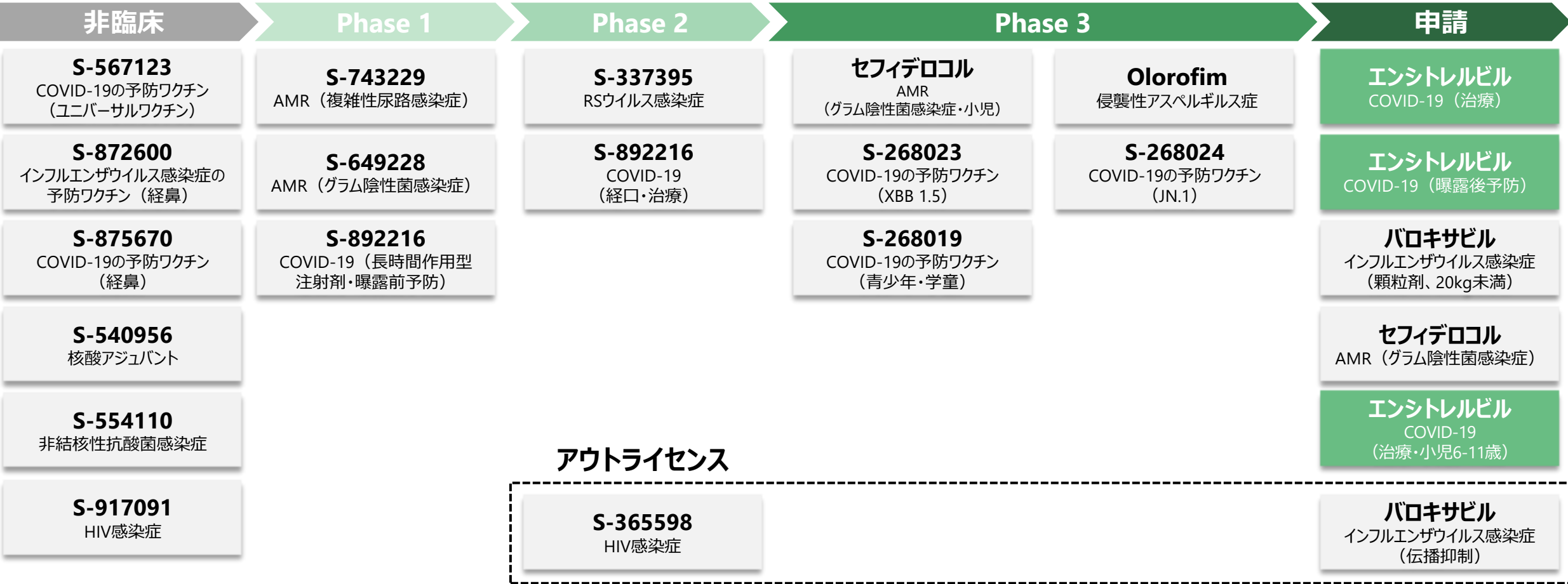
プロジェクト	対象疾患	現ステージ	上市予定時期*1
エンシトレビル	COVID-19 治療	申請	-FY2027
	COVID-19 治療 (小児6-11歳)	申請	-FY2027
	COVID-19 曝露後予防	申請	-FY2027
S-268024	COVID-19 (JN.1ワクチン)	Phase 3	-FY2027
セフィデロコル	AMR (グラム陰性菌感染症 小児)	Phase 3	-FY2027
Olorofim	侵襲性アスペルギルス症	Phase 3	FY2028-2030
S-337395	RSウイルス感染症	Phase 2	FY2028-2030
S-743229	AMR (複雑性尿路感染症)	Phase 1	FY2028-2030
S-649228	AMR (グラム陰性菌感染症)	Phase 1	FY2028-2030
S-567123	COVID-19 (ユニバーサルワクチン)	非臨床	FY2028-2030
S-892216	COVID-19 治療 (経口)	Phase 2	FY2028-2030
	COVID-19 曝露前予防 (注射剤)	Phase 1	FY2031-

- 社会的影響度の高いQOL疾患領域 -

プロジェクト	対象疾患	現ステージ	上市予定時期*1
ズラノロン	うつ病、うつ状態	申請	FY2025
Resiniferatoxin	変形性膝関節症に伴う 疼痛	Phase 3	-FY2027
Zatolmilast	脆弱X症候群	Phase 2/3	-FY2027
	Jordan症候群	Phase 2	-FY2027
レダセムチド	栄養障害型表皮水疱症	Phase 2	-FY2027
	急性期脳梗塞	Phase 2b	FY2028-2030
SASS-001 (S-600918+ 併用薬X)	睡眠時無呼吸症候群 (中枢性)	Phase 2	FY2028-2030
S-531011	固形がん	Phase 1b/2	FY2028-2030
S-151128	慢性疼痛	Phase 1b	FY2031-
S-606001	ポンペ病	Phase 2	FY2031-
S-309309	肥満症	Phase 2	開発計画検討中

開発パイプラインの状況_感染症

2025年7月28日現在

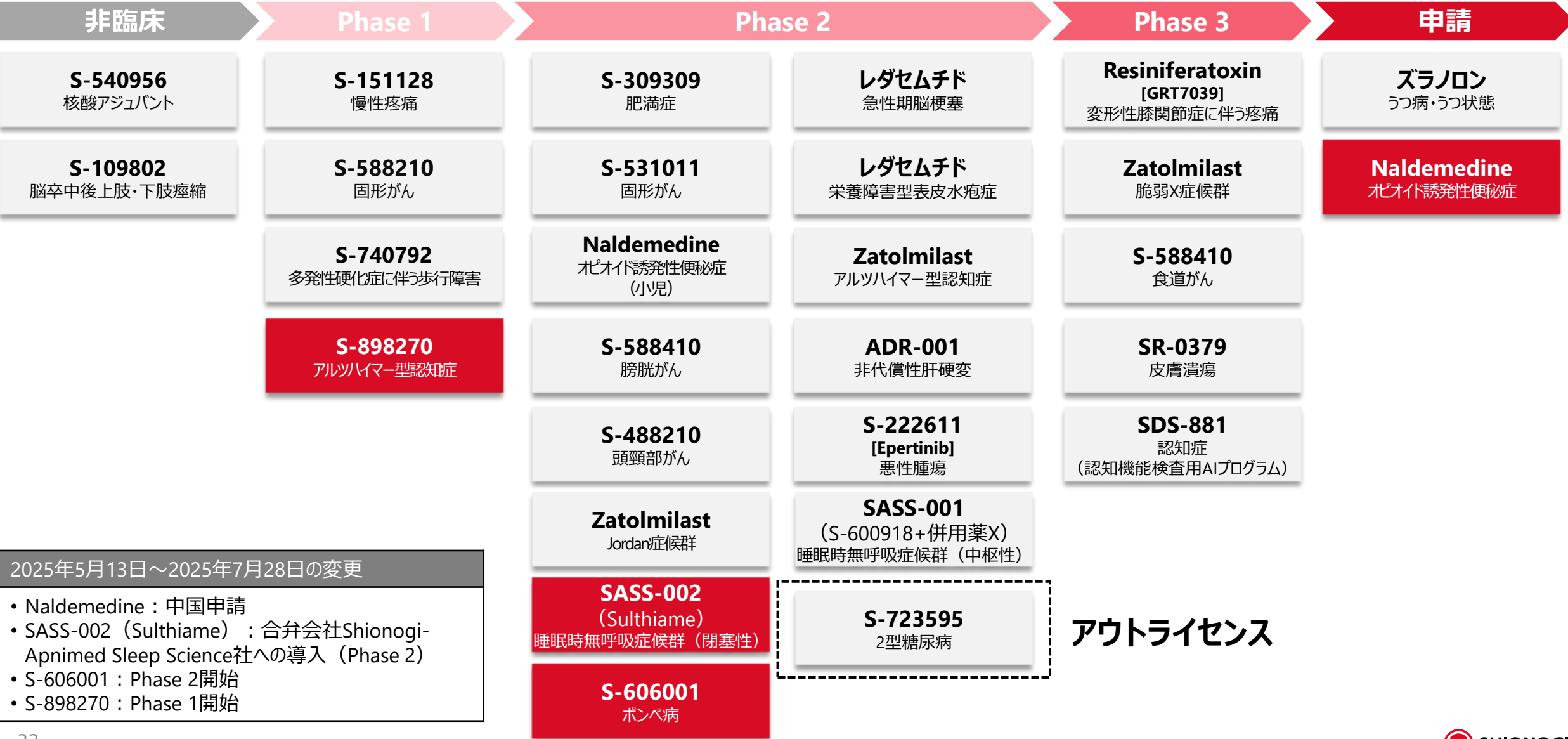


2025年5月13日～2025年7月28日の変更

- ・バロキサビル (インフルエンザウイルス感染症、小児1歳未満) : 欧州承認
- ・エンシトレルビル (COVID-19の治療) : 欧州申請
- ・エンシトレルビル (COVID-19の曝露後予防) : 米国、欧州申請
- ・エンシトレルビル (COVID-19の治療 小児6-11歳) : 国内申請

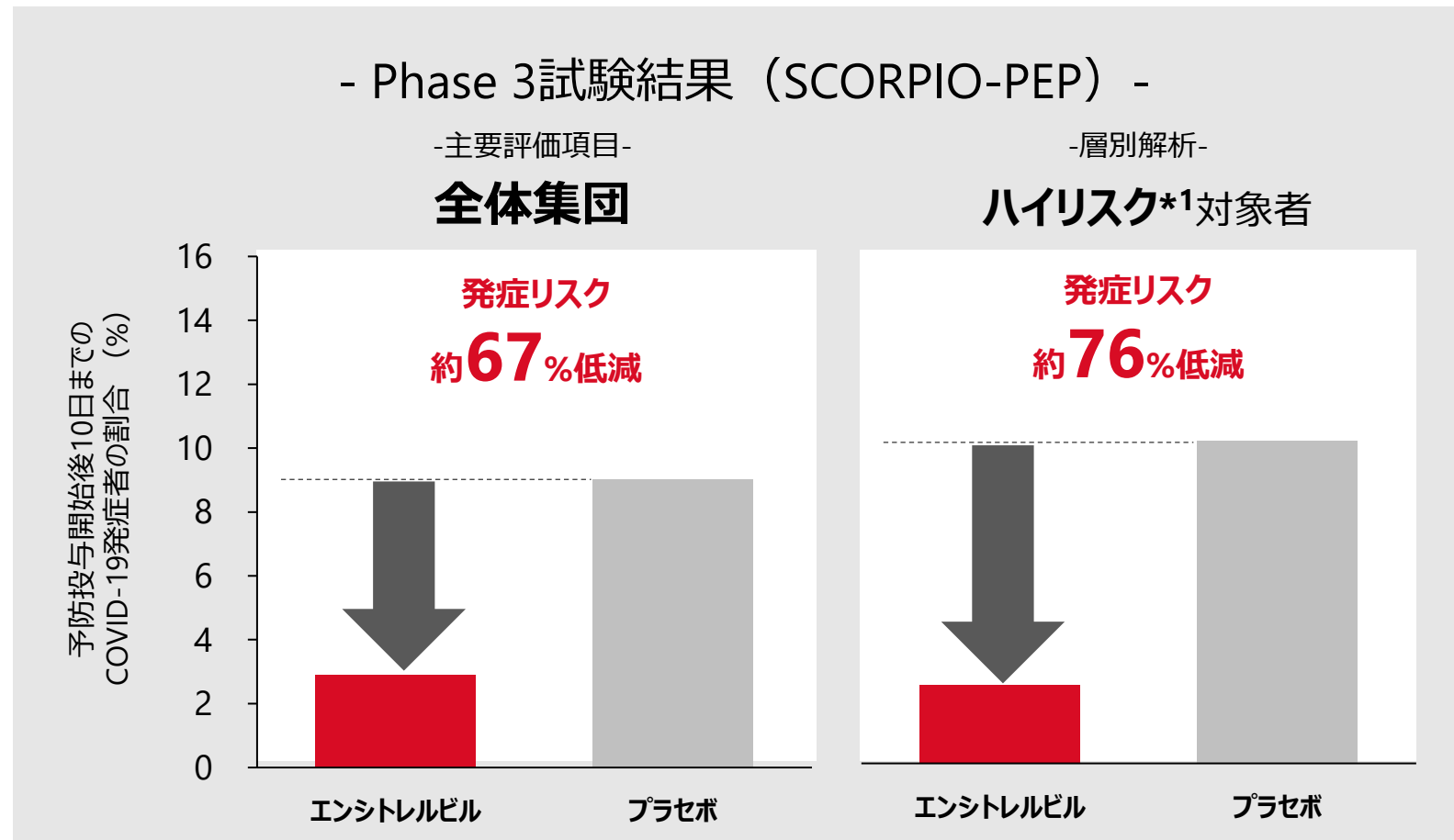
開発パイプラインの状況_社会的影響度の高いQOL疾患

2025年7月28日現在



エンシトレルビル：SCORPIO-PEP試験結果

経口抗ウイルス薬として世界初のCOVID-19の発症抑制効果を確認



S-337395

適応疾患：RSウイルス感染症

製品特性：

- 新規作用機序（Lタンパク質阻害）を有する抗ウイルス薬
 - U B E 株式会社との共同研究により見出された化合物
- 簡便に使用できる経口薬
- 優れた抗ウイルス効果

市場性（米国における潜在患者数）

年間300万人以上の潜在患者がいる大きい市場

乳幼児（0-5歳）

約 **210** 万人

—入院患者数—
5.8-8 万人

—死亡者数—
100-500 人

ハイリスク患者（60歳以上）

約 **120** 万人

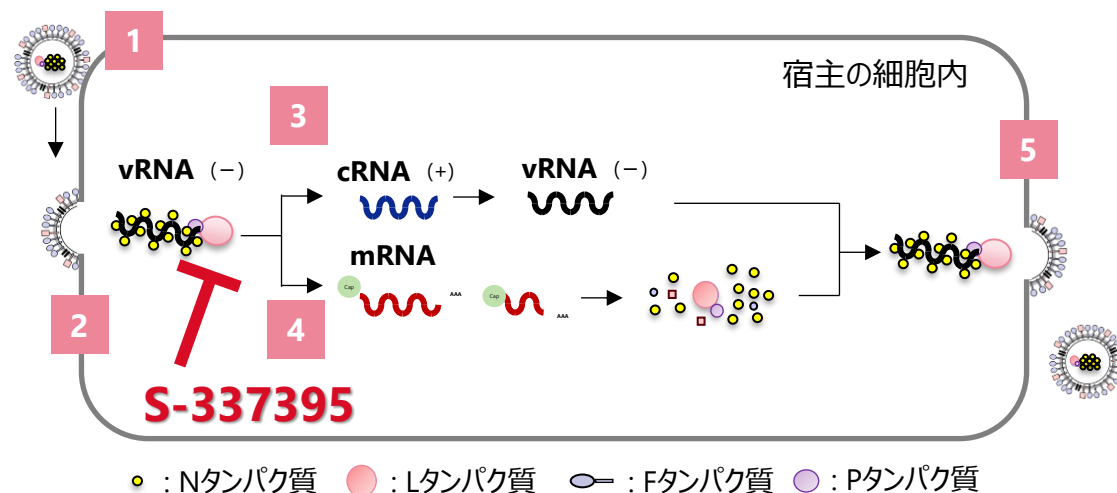
—入院患者数—
-10.8 万人

—死亡者数—
7,700 人

S-337395のメカニズム

RSウイルスのライフサイクルのうち、ウイルスゲノムの
転写・複製に関する**Lタンパク質**を阻害

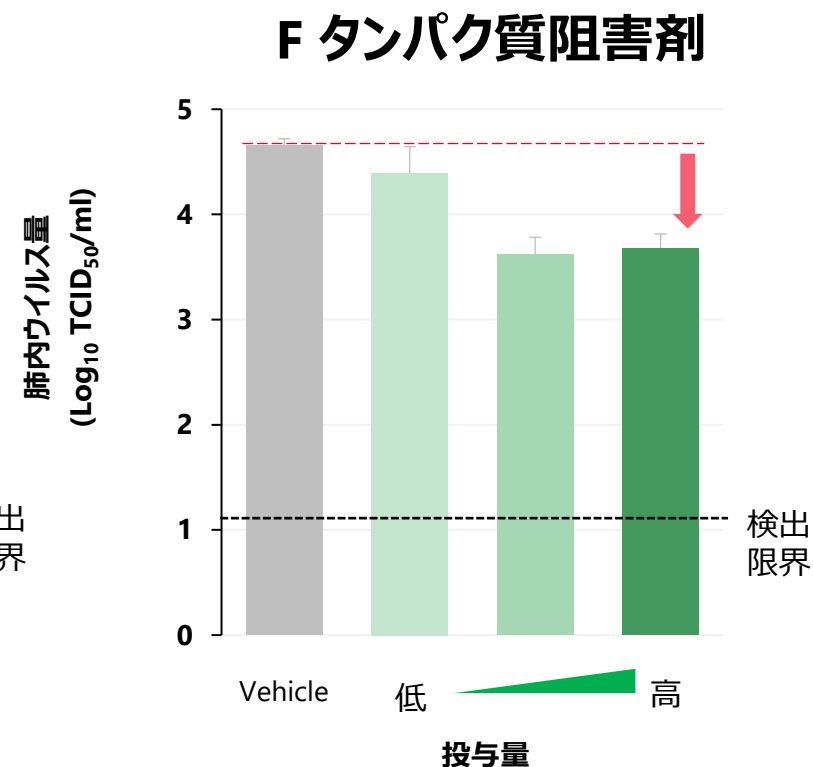
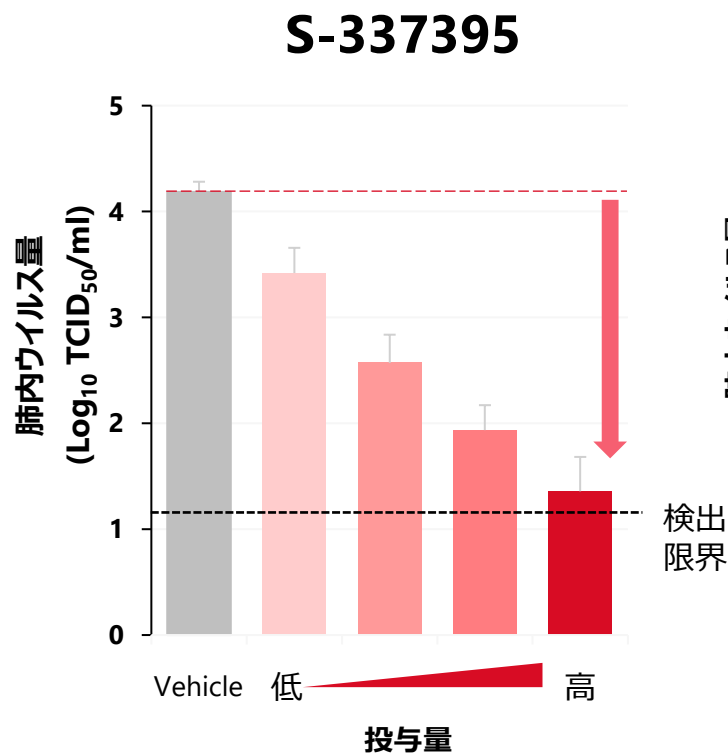
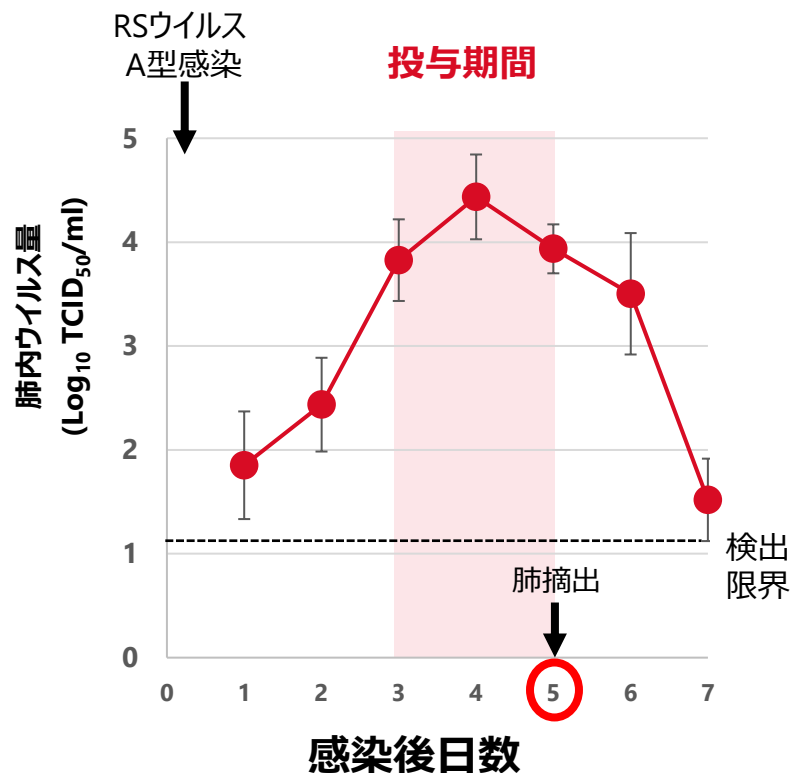
1. 吸着 → 2. 膜融合 → 3. 複製 → 4. 転写 → 5. 出芽



S-337395：非臨床データ

Fタンパク質阻害剤と比較して、ウイルス増殖ピーク付近からの処置でも明確なウイルス減少作用を示す

RSウイルス感染マウス治療投与モデル



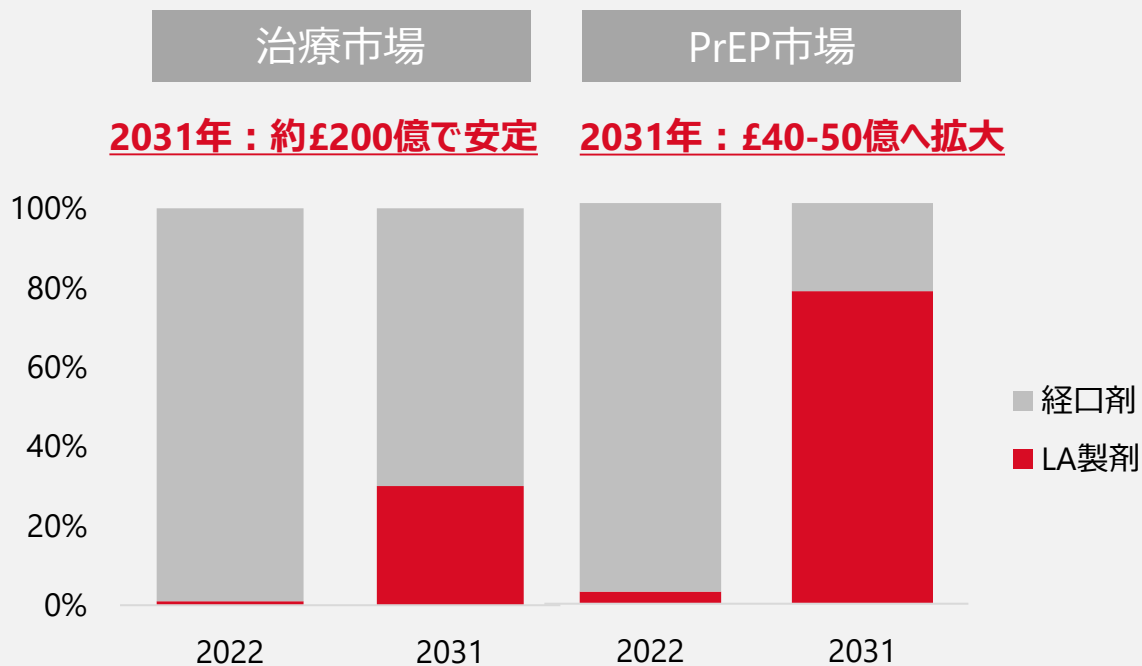
ViiV社の抗HIV治療・予防薬のラインナップ

製品名	製剤	化合物*1	投与方法	投与頻度	適応	2024年売上 (£M)
Cabenuva	LAI製剤	CAB + RPV	筋肉内注射	2ヶ月に1回	治療	£ 1,013M
Apretude		CAB	筋肉内注射	2ヶ月に1回	PrEP	£ 279M
Dovato	経口 2剤レジメン	DTG + 3TC	経口	毎日	治療	£ 2,239M
Juluca		DTG + RPV	経口	毎日	治療	£ 685M
Tivicay	経口 単剤	DTG	経口	毎日	治療	£ 1,350M
Triumeq	経口 3剤レジメン	DTG+ABC+3TC	経口	毎日	治療	£ 1,325M

HIV市場（治療+予防）の成長見通し

治療およびPrEP*1の市場で、LA製剤が今後も成長を牽引する

HIV市場の見通し*2（治療および予防市場）



2031年：約£200億で安定

2031年：£40-50億へ拡大

HIV市場の中心は今後も**治療市場**

// 治療市場

- 米国にて、新規感染者が近年約2.5-3%増加*3
- 経口剤のGE販売後もマーケットサイズは同程度
- 今後も**インテグラーゼ阻害剤を含むLA製剤**が主流に
 - LA製剤は2031年には全体の**約30%**を占める予想

// PrEP市場

- 潜在的な対象者（約120万名）のうち、予防薬を使用しているのは約30%*4
- LA製剤の浸透により、予防市場全体の拡大を想定
 - LA製剤は2031年には全体の**約80%**を占める予想
- 予防市場でもLA製剤のインテグラーゼ阻害剤は重要になると想定され、十分な保険償還があれば市場の大部分を占める可能性

その他の成果*1

• 5月

- DTx流通プラットフォームの開発・運用に向けた3社間基本合意書を締結

• 6月

- ラベル台紙の水平リサイクルを目指す「資源循環プロジェクト」がWORLDSTAR GLOBAL PACKAGING AWARDS 2025において、Special Award Sustainability部門で “Silver”を受賞

• 7月

- 減感作療法薬「アシテア®ダニ舌下錠」のプロモーション会社変更
- 水素関連分野への投資に特化したJapan Hydrogen Fund, L.P.との出資契約の締結
- グラム陰性菌感染症治療薬セフィデロコルの早期導入に向けた ケニア保健省への意向表明書およびConcept Noteの提出

将来の見通しに関する注意事項

- 本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。
これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論・結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保険関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- 承認済みの製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項により、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。
- 本資料には、医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は国内外を問わず、投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。
- 本資料の利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。